

ルーマニア月報

2026 年 9 月号

本月報はルーマニアの報道等をもとに、
日本大使館がとりまとめたものです。

令和 8 年 10 月 9 日
在ルーマニア日本国大使館作成

主要ニュース

【内政】

- 9 月 17 日、ダン大統領はムレシャン欧州議員を首相候補に指名するも PSD 等の支持を得られず、9 月 30 日の信任投票で否決。
- 9 月 16 日、農牧業者の抗議活動が治安部隊との衝突に発展し、47 名が連行され、治安要員を含む 20 名以上が負傷。
- 約 110 万ユーロの詐欺事件を巡りジョルジュスク元大統領候補が捜査対象となり、9 月 29 日に控訴裁が 30 日間の勾留を決定、AUR が政治的捜査として反発。

【経済】

- 9 月 3 日、国家統計局は 2026 年第 2 四半期の時間当たり労働コストは前年同期比で 1.8%上昇した旨発表。
- 9 月 7 日、国家統計局は 2026 年第 2 四半期のルーマニアの GDP（季節調整済）は前年同期比で 2%減、2026 年上半期では前年同期比で 1.6%減と発表。
- 9 月 24 日、ボロジャン暫定首相は国際的格付け機関スタンダード・アンド・プアーズ（S&P）の代表団と会談。S&P はルーマニアでの評価ミッション完了後、ルーマニアを「BBB-/A-3」に据え置くことを決定。

【外政】

- 9 月 2 日、メルケル前独首相が回想録のルーマニア語版発表に際してブカレスト訪問。
- 9 月 3 日、コスタ欧州理事会議長が組閣危機に直面するブカレストを訪問。
- ダン大統領、国連総会ハイレベル週間で演説、CNN のインタビューでドローンの脅威を説明。

【防衛・安全保障】

- 9 月 12 日、スチャバ県（ルーマニア北東部）ボトシェニツァ・マレ近郊の畑にドローンが墜落。衝突により小規模な火災が発生（死傷者の報告はなし）。

【我が国との関係】

- 9 月 12 日、ルーマニア政府は日本人俳優・佐々木蔵之介氏に「文化功労」勲章の授与を伝達。
- 9 月 12-13 日、当館は東欧コミコンで漫画ワークショップを開催。
- 9 月 16 日、当地ウクライナ避難民支援センターに緒方貞子会議室設置。
- 9 月 18 日、当館は落合陽一筑波大学教授のミニセミナー等を開催。

内政

● ムレシャン首相候補の指名と否決

- 9 月 17 日、ダン大統領は各党との協議を経て、ムレシャン（Siegfried Muresan）欧州議会議員（PNL）を首相候補に指名。PNL・USR・UDMR が支持する一方、PSD・AUR・PACE は反対。9 月 21 日、PSD は党執行部でムレシャン内閣を支持しない方針を全会一致で決定。
- 9 月 26 日、ムレシャン首相候補は 16 閣僚からなる組閣名簿及び 372 項目の施政方針を議会に提出。閣僚候補に対する委員会公聴会では 8 名が賛成、8 名が反対の評価。9 月 28 日、PSD は国家政治評議会で内閣不支持

を改めて全会一致で決定。

- 9月30日、上下両院合同本会議でムレシヤン内閣に対する信任投票を実施したが、賛成 182 票、反対 15 票にとどまり、必要な 233 票に達せず否決。PSD 議員は出席したものの投票せず、AUR は採決自体をボイコットした。これにより、5 月のボロジャン内閣崩壊以来続く政治空白がさらに長期化した。

● 農牧業者による大規模抗議と警官隊との衝突

- 9月16日、補助金、獣医規制、市場アクセス等を巡る 16 項目の要求を掲げた農業・畜産関係者がブカレストの勝利広場で抗議活動を実施。一部参加者が投石や火炎・発煙物の使用、バリケード破壊等を行い、ルーマニア国家憲兵隊が催涙ガスを使用する事態となった。47 名が警察署に連行され、治安要員を含む約 20 名以上が負傷した。

● ジョルジエスク元大統領候補の拘束

- 9月21日、組織犯罪・テロ捜査局（DIICOT）は、約 110 万ユーロに関する詐欺事件を巡り、ジョルジエスク（Calin Georgescu）元大統領候補を拘束。9月22日、ブカレスト地方裁判所は 30 日間の勾留請求を退け、60 日間の司法監督処分としたが、9月29日、ブカレスト控訴裁判所は DIICOT の不服申立てを認め、同氏に 30 日間の勾留を命じた。AUR は一連の捜査を「政治的」と批判し、同氏の釈放まで今後の内閣を支持しない方針を表明。

● 「ミコノス問題」を巡る利益相反疑惑

- 9月、デルヨルガ（Cristian Deliorga）憲法裁判所判事、ポンタ（Victor Ponta）元首相、マノレ（Florin Manole）前労働相、実業家ら計 13 名が民間チャーター機でギリシャ・ミコノス島を訪問した件が報道され、政治家・実業家と現職憲法裁判所の同行を巡り利益相反等への疑念が浮上。PNL・USR は、航空機の手配者及び費用負担者等を明らかにするため議会調査を要求。

● 「KimberlyGate」を巡る政界疑惑

- 9月下旬、米紙報道を契機に、ギルフォイル（Kimberly Guilfoyle）駐ギリシャ米大使が3月、ボロジャン政権の崩壊を米国の影響力と関連付ける趣旨の発言をしていたとの疑惑が浮上。同大使はその後ブカレストでグリンデアヌ（Sorin Grindeanu）PSD 党首、イヴァン（Bogdan Ivan）エネルギー相（当時）らと会談し、米国産 LNG の輸送に関係する「垂直ガス回廊」等について協議していたため、5 月のボロジャン政権崩壊との関連を巡り政治問題化した。PSD 側は米国との共謀や政権崩壊への外国関与を全面的に否定。
- 9月26日、デミトリウ（Alexandru Dimitriu）USR 議員は、グリンデアヌ PSD 党首、シミオン（George Simion）AUR 党首及びイヴァン前エネルギー相について、外国勢力との関係を通じてルーマニアの経済的利益を損なった疑いがあるとして「反逆」等の容疑で刑事告発。

● アラファト内務次官（緊急事態総局長）に対する刑事捜査

- 9月11日、ブカレスト軍事控訴裁判所付軍事検察庁は、2017 年の救急医療・救助サービス（SMURD）ヘリコプター取得に際し、必要な通関手続を経ず VAT 約 443 万レイが納付されなかったとされる事件で、アラファト（Raed Arafat）内務次官（緊急事態総局（DSU）局長）に、密輸ほう助容疑の被告人となったことを正式通知。同氏は容疑を否定し、辞任しない意向を表明。プレディオウ（Catalin Predoiu）内相は、アラファト次官のこれまでの公共サービスへの貢献を擁護。

● 世論調査の結果

- CURS（調査実施期間 9月16日～9月22日、対象者 1,100 名、統計上の誤差±3%）
 - ✧ 政党支持率：AUR 34%、PSD 25%、PNL 18%、USR 8%、UDMR 5%、SOS ルーマニア 3%
 - ✧ 回答者の 79%が「ルーマニアは誤った方向に進んでいる」と回答（「正しい方向」15%）。早期総選挙については賛成 47%、反対 47%と世論が二分しており、長期化する政治危機への強い不満が示された。

【政党略称】PSD：社会民主党、PNL：国民自由党、AUR：ルーマニア人統一同盟、UDMR：ハンガリー人民主同盟、USR：ルーマニア救国同盟、POT：青年党、PUSL：社会自由ヒューマニスト党、AFD:右派の力連合、SENS：健康・教育・自然・持続可能性党、PACE: 議会会派「平和—ルーマニア第一」（主に SOS・POT 離脱議員らによる極右会派）

経済

(1) 主要経済統計とりまとめ（国家統計局、財務省、ルーマニア中央銀行 発表とりまとめ）

● 国家統計局（INS）

	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3	2026/4	2026/5	2026/6	2026/7
貿易収支（億€）	-327.431	-23.255	-47.616	-77.042	-108.148	-135.056	-164.599	-192.768
消費者物価指数(%)	9.69	9.62	9.31	9.87	10.71	10.85	10.42	8.16
失業率（%）	6.1	6.0	6.0	6.1	6.3	6.4	6.3	6.4
平均グロス給与（€）	1,973	1,844	1,854	1,980	1,948	1,897	1,913	1,856
平均ネット給与（€）	1,183	1,103	1,111	1,187	1,169	1,137	1,145	1,113

● 消費者物価指数（国家統計局（INS）・ユーロスタット）

	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3	2026/4	2026/5	2026/6	2026/7
消費者物価指数(%)	9.69	9.62	9.31	9.87	10.71	10.85	10.42	8.16
食料品価格(%)	7.75	7.86	7.89	7.67	7.39	6.78	5.75	5.03
非食量品価格(%)	10.48	9.99	9.41	10.89	12.02	12.54	12.29	7.93
サービス価格(%)	11.00	11.59	11.37	11.05	13.04	13.53	13.67	13.67
ユーロ圏平均	1.9	1.7	1.9	2.6	3.0	3.2	2.8	2.9
EU27 カ国平均	2.3	2.0	2.1	2.8	3.2	3.3	2.9	3.0

● 財務省（MF）

	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3	2026/4	2026/5	2026/6	2026/7
財政収支（億 lei）	1460.332	8.451	142.326	210.946	239.532	359.409	410.298	480.838
GDP 比（%）	-7.65	-0.04	-0.7	-1.03	-1.17	-1.75	-2.00	-2.34

● ルーマニア中央銀行（BNR）

	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3	2026/4	2026/5	2026/6	2026/7
政策金利（%）	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50
外貨準備高（億€）	648.00	658.12	650.23	670.32	648.36	640.51	634.93	632.30
経常収支（億€）	-301.27	-9.77	-31.91	-53.38	-79.80	-114.25	-142.02	-162.90
前年同期（億€）	-288.53	-10.32	-36.38	-61.53	-91.01	-120.75	-135.55	-157.07
FDI（億€）	81.53	4.29	11.28	11.30	15.29	21.95	6.69	11.27
前年同期（億€）	56.02	4.17	8.54	16.35	22.32	29.13	37.19	49.15
前年同期比（%）	+45.54	+2.88	+38.08	-30.88	-31.49	-24.65	-82.01	-77.00
中長期対外債務(億€)	1794.31	1817.19	1825.19	1828.47	1827.74	1839.22	1845.81	1822.10
前年末比（%）	+14.8	+1.3	+1.2	+1.4	+1.4	+2.0	+2.4	+1.1
短期対外債務（億€）	479.16	476.14	474.44	486.78	467.76	469.92	481.91	526.69
前年末比（%）	+1.6	-0.6	-1.5	+1.1	-2.8	-2.4	+0.1	+9.4

● **業種別（前年同期比）（国家統計局（INS）・ユーロスタット）**

	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3	2026/4	2026/5	2026/6	2026/7
鉱工業								
工業生産高（%）	1.6	-3.8	-1.5	-2.2	-3.1	-5.3	-5.2	-6.1
工業売上高(名目)（%）	-6.1	-4.3	-2.5	-0.1	-1.1	-0.5	4.4	1.3
工業製品物価指数（%）	6.0	7.8	3.0	7.0	10.3	12.1	12.7	8.8
新規工業受注高(名目)（%）	9.5	-5.3	-3.2	0.0	-3.4	-5.6	0.0	-6.9
小売業								
小売業売上高(除:自動車・バイク)(%)	-2.0	-6.5	-6.2	-3.2	-6.3	-4.7	-7.3	-6.1
自動車・バイク売上高(%)	6.7	-0.3	2.7	2.7	2.1	2.0	-6.2	-10.3
小売業売上高 ユーロ圏平均(%)	1.3	2.0	1.7	1.2	1.0	1.6	0.7	0.6
小売業売上高 EU 平均(%)	1.7	2.3	1.7	1.9	0.9	1.9	1.2	1.0
建設業								
工事(%)	3.8	-0.9	13.8	9.0	20.3	16.4	13.1	-8.3

(1) 主要経済関連ニュース

【経済見通】

- 9月3日、国家統計局は2026年第2四半期の時間当たり労働コストは前期比で0.32%低下したものの、前年同期比では1.8%上昇した旨発表。
- 9月7日、国家統計局は2026年第2四半期のGDPは、前年同期比で、未調整データで0.4%減、季節調整済みデータで2.0%減、2026年上半期のGDPは、前年同期比で、未調整データで0.7%減、季節調整済みデータで1.6%減と発表。
- **8月のインフレ率は6.2%と更に鈍化**
 - 9月11日、国家統計局は8月の前年比インフレ率は6.2%となり、7月の8.2%から大幅に低下した旨発表。品目別では、サービス価格（サービス+11.3%、非食品+6.4%、食品+2.6%）と燃料（軽油+34.6%、ガソリン+25.5%）の上昇幅は引き続き大きい。年初来物価上昇率は+4.6%。
 - 9月11日、エルステ・グループはこの急激な鈍化を「ポジティブなサプライズ」と評価し、2026年末のインフレ率予測を6.9%から6.4%へと下方修正した。
- **レイは対ユーロで最安値を更新**
 - 9月23日、長引く政治的膠着状態を背景に、ルーマニアの通貨レイは対ユーロで下落し、ルーマニア中央銀行（BNR）が公表した基準為替レートは1ユーロ＝5.2788レイとなった。5月6日に記録した1ユーロ＝5.2688レイを上回り、過去最安値を更新。5月6日は、ルーマニア議会がボロジャン首相率いる当時の政権に対する不信任決議を可決し、内閣が退陣に追い込まれた翌日にあたる。
- **S&P、ルーマニアの格付けを「BBB-/A-3」で据え置き、見通しは「ネガティブ」**
 - 9月24日、ボロジャン暫定首相は首相府で、国際的格付け会社スタンダード・アンド・プアーズ（S&P）の代表団と会談。同代表団のブカレスト訪問は、ルーマニアの経済・財政状況に関する定期評価の一環。S&Pの評価結果は10月2日に公表され、ルーマニアの格付けを「BBB-/A-3」で据え置き、見通しを「ネガティブ」とした。
- **1～8月の財政赤字はGDP比で1.62ポイント改善**
 - 9月29日、ルーマニア財務省は、2026年1～8月の財政赤字は594.2億レイとなった旨発表。これは同年の予測国内総生産（GDP）比2.89%に相当し、前年同期の4.51%から1.62ポイント改善した。
- **失業率は引き続き高止まり**
 - 9月14日、国家統計局は2026年第2四半期の労働市場統計を発表。失業率は6.8%（前期比0.3%増）で、特に15～24歳の若年失業率は29.9%とEurostatによるEU平均（15.1%）の約2倍。
 - 9月30日、国家統計局は8月の季節調整済失業率を6.4%と発表。前月から横ばいだが前年同月比0.3%増。

(2) エネルギー関連ニュース

● 首相監査機関は SMR の推定費用の上昇と進捗の遅れを指摘

- 9月11日、首相府の首相監査機関は、2025年11月から2026年3月に国営原子力発電会社ヌクレアエレクトリカに対して行った調査の報告書を発表。ドイチェシュティ SMR（小型モジュール炉）プロジェクトの2025年12月時点での推定費用は65億ドルとなり、当初の推定額を約38億ドル上回った。また、工程も当初計画から遅れており、FEED2の完了は当初予定より20か月遅延している旨指摘。

● ブゾイアヌ環境・水利・森林相、新たな太陽光発電の蓄電池導入プログラムに言及

- 9月21日、ブゾイアヌ環境・水利・森林相は、今年開始される太陽光発電の蓄電池導入プログラムが、中期的に電力の市場価格引き下げに寄与するとの見方を示した。同プログラムの予算は4億レイで、申請受付を「先着順」から、申請案件の内容を評価する方式へと変更したこと、共同出資案件であることも主要な評価基となることを述べた。

(3) 日本企業関連ニュース

● JTI ルーマニアがルーマニア企業利益ランキングで8位に

- 9月1日、JTI ルーマニアは、2025年のルーマニア企業の利益ランキングで8位となった。同社の純利益は13億5,600万レイとなり、前年の10億8,700万レイから約24.7%増加。

● アサヒグループ食品子会社がルーマニアの飼料用ビール酵母メーカーを買収

- 9月7日、ドイツのビール酵母関連製品製造販売会社 Leiber（ライバー）社は、ルーマニアの Agsira（アグシラ）社の生産拠点の買収を完了した旨発表。アグシラ社は飼料用ビール酵母の製造・販売を手がける企業で、ライバー社はこの買収により乾燥酵母の生産能力拡大とバルカン・中東欧地域での事業基盤強化を狙う。ライバー社は2025年にアサヒグループ食品が株式を100%取得している。

(4) ルーマニア・中国経済関係

● ブカレスト・北京間の直行便の運行が再開

- 9月4日、中国国際航空（Air China）は、アンリ・コアング国際空港（オトペニ）と北京を結ぶ直行定期便を再開。新路線は北京―ブカレスト―ザグレブの経路で運航され、週3便運行される。両国を結ぶ直行定期便の再開は20年以上ぶり。

● ルーマニア・中国の大学病院間協力

- 9月9日、トゥルグ・ムレシュの「ジョルジエ・エミル・パラデ」医科・薬科・科学技術大学は、中国・四川大学華西医院と、臨床・学術分野における協力覚書（MOU）を交わした。臨床研修、医療シミュレーション、研修、能力開発などでの協力を対象とし、低侵襲手術、ロボット手術、臓器移植、麻酔・集中治療、画像診断、デジタルヘルス、人工知能（AI）、遠隔医療、精密医療などの分野での連携を想定。

● リバティ・ガラツィ製鉄所の買収に各国企業が関心

- 9月22日、中国の Risun Group（日昇集団）の代表団がリバティ・ガラツィ製鉄所を視察。これまでも、インド、ルーマニア、ウクライナの企業による同製鉄所訪問が報じられている。

(5) その他トピックス

● 製造業投資向けの新たな国家支援制度

- 9月3日、財務省は、輸入依存度が高く貿易赤字となっている製品の国内生産促進のため、製造業の設備投資を支援する制度の第1回申請受付を10月15日から開始すると発表。今回の募集枠は7億5,900万レイ（約1.5億ユーロ）。制度全体の予算は53億1,300万レイ（約10.5億ユーロ）で、2026～2032年に資金供与契約を締結し、補助金の支払いは2036年まで行われる。

- **国家復興・強靱化計画（PNRR）の吸収率は 90%超**

- 9月14日、欧州投資・事業省は、PNRRについて最終となる第6回支払請求に向けた手続きを進めている旨発表。暫定情報では、ルーマニアに割り当てられた PNRR 資金の吸収率は、補助金部分で 90%超、融資部分で 95%超と見込まれる。PNRR のルーマニアへの割当総額は 201.1 億ユーロ。

- **ポロジャン暫定首相は韓国水力原子力関係者と会談**

- 9月17日、ポロジャン暫定首相は、駐ルーマニア韓国大使及び韓国水力原子力（KHNP）の関係者と会談を行った。ヌクレアエレクトリカ社の関係者も同席。首相は、チェルナヴォダ原子力発電所1, 2号機がルーマニアの電力需要の 20%を供給していることを踏まえ、KHNP 社が手がける同発電所改修プロジェクトの進捗状況を最大限の注意を払って注視していると述べた。

外政

（1） 要人往来

- 9月2日、ドイツのメルケル前首相が回想録『自由』のルーマニア語版の発表に際して、ブカレストのルーマニア国立アテネ音楽堂を訪れ、ジャーナリストのエミル・フレゼアヌ氏との公開対談を行った。書籍発表のほか、メルケル氏はコトロチエ宮殿（大統領府）でダン大統領と会談した。
- 9月3日、コスタ欧州理事会議長がブカレストを訪問し、コトロチエ宮殿でダン大統領と会談した。報道では、4か月に及ぶ組閣の行き詰まりに対するブリュッセルの懸念の表れとされたが、コスタ議長は、欧州の安全保障に対するルーマニアの揺るぎないコミットメントに謝意を示し、ロシアのエスカレーションは欧州の結束を弱めないと述べた。
- 9月13・14日、ダン大統領は、ドイツのメルツ首相、ポーランドのトゥスク首相、デンマークのフレデリクセン首相、コスタ欧州理事会議長、カッラス EU 外務・安全保障政策上級代表らとともに、フィンランド・ロヴァニエミで開催された、北極の安全保障と重要インフラ防護に関する欧州北極サミットに出席した。
 - ダン大統領は、北極と黒海の安全保障は連関する課題として扱うべきと主張し、ルーマニアは「北極から黒海まで」の共通の欧州的アプローチを支持すると表明。海底ケーブルやエネルギー・インフラ保護に対する支援を申し出た。

（2） 国連総会ハイレベル週間

- ダン大統領は国連総会ハイレベル週間（主な登壇は9月23日）に初めて出席。
 - ソーシャルメディアを通じた情報操作が民主主義への脅威であるにもかかわらず、十分に対処されていないと警告。
 - ガザ情勢について、国連安保理決議に基づく米国仲介の和平計画の完全実施を支持し、持続的安定の前提としてハマスの武装解除が不可欠と表明。ヨルダン川西岸の情勢が計画のリスクであるとも指摘した。
 - イランについて、核兵器を保有すべきでなく、国際原子力機関（IAEA）への透明性回復を求めるとした。
 - 黒海とホルムズ海峡における航行の自由を訴え、世界の食料安全保障と、ルーマニア黒海沿岸のコンスタンツァ港を経由する「コンスタンツァ穀物回廊」との関連性を強調。黒海沖ガス田（推定可採量約 1000 億立方メートル）の開発を来年開始する計画にも言及した。
 - フランス主催のウクライナに関する国連安保理討議では、戦争がルーマニアと近隣地域にもたらす安全保障上の帰結を説明。
 - 22日（現地時間）放映のCNN インタビューで、ルーマニアの対ドローン防衛態勢は改善したが完全ではないと述べ、黒海沿岸に近いロシア総領事館の閉鎖は最近の国境越え事案への相応の対応と説明。今後1～2年でロシアが NATO 加盟国を直接攻撃する可能性は低いとの見方を示した。

- 9月23・24日、ツォイウ外相はニューヨークで多国間・二国間会談を実施。
 - 国連総会ラフマン議長と会談したほか、バヌアツ、ガーナ、モロッコの各外相と二国間会談を実施。米下院のウィルソン議員（共和・サウスカロライナ）とも会い、黒海の安全保障と米国との戦略的パートナーシップについて協議した。
 - 豪州、インド、韓国、日本の外相等を迎えた非公式の EU 外相会合に参加し、悪化する世界の安全保障情勢やインド太平洋での協力について意見交換を行った。
 - 24日、EU、フランス、ウクライナとともに、黒海の食料安全保障と安全な航行に関する国連閣僚会合において共同議長を務め、エネルギーに限らず全ての重要インフラと航路を保護する停戦への第一歩として、攻撃のモラトリアムを提唱。ルーマニア、トルコ、ブルガリアが黒海での協力を海底ケーブルやエネルギー・インフラの保護へ拡大する方針を示した。
 - 中欧イニシアティブ（CEI）および南東欧協力プロセス（SEECP）の議長国（輪番制）として、レジリエンス、ハイブリッド脅威、西バルカン・モルドバ・ウクライナの EU 加盟プロセスを主題とする閣僚級ワーキング・ランチを開催した。

防衛・安全保障

（1） 事案・イベント等

【無人機事案】

- **スチャバ県（ルーマニア北東部）ボトシェニツァ・マレ近郊の畑にドローン墜落**
 - 9月12日、ウクライナ及びモルドバからルーマニアに対し、ドローンが両国の領空を横切り、ルーマニア北東部に向かって飛行していることが通知され、ルーマニア空軍の F-16 戦闘機 2 機が、状況監視のため、緊急発進した。
 - 同日、スチャバ県ボトシェニツァ・マレ近郊の畑にドローンの墜落が確認された。
 - 衝突により小規模な火災が発生し、直径約 1m、深さ約 30cm のクレーターが確認された。
 - 現在までに、死傷者の報告はない。
- **ブライラ県グロペニ近郊の耕作地にドローンの残骸発見**
 - 9月29日、ブライラ県グロペニ近郊の耕作地に、ドローンと思われる物体の残骸が落下した。
 - 物体の落下後に火災が発生したが、すぐに鎮火し、死傷者や物的損害はなかった。
- **ドローンによる領空侵犯事案**
 - 9月8日、ヤシ市の南東約 30km の地点からドローンが領空を侵犯した。約 30 分領空内に留まった後、モルドバ方面へ移動し、モルドバ内で墜落した。
 - 9月24日、ボトシャニ県北部からドローンが領空を侵犯した。約 4 分飛行した後、スチャバ県ソルカ近郊に墜落した。死傷者や物的損害は発生しなかった。
 - 9月26日、キリア・ヴェケ付近でドローンが領空を侵犯した。数分後、目標の信号は途絶えた。
 - 9月27日、チャタルキオイを經由しドローンが領空を侵犯した。約 10 分後、目標の信号は途絶えた。

【スパイ活動】

- **ロシア人スパイの逮捕**
 - ロシア人スパイ、イヴァン・クツェンコは、ルーマニアの主要な軍事基地に関する情報を収集していたとされ逮捕された。
 - 捜査当局によると、彼は首都の軍事施設、コガルニチェアーヌ基地、ボルチェア基地及びカンピア・トゥルジ基地を標的にしていたという。
 - 検察当局によると、写真や動画は Telegram アプリを通じて国外の何者かに送信されており、国内での破壊活動に利用される予定だったという。

(2) 主要な会談・会合等

● 国防大臣、スペイン国防大臣とともに空軍基地を訪問

- 9月16日、ミルツァ国防相及びヴラド参謀総長は、スペインのロブレス国防大臣、同ロブレス統合参謀本部総長とミハイ・コガルニチエヌ空軍基地を訪問し、公式会談を行った。
- 会談では、二国間関係の現状、同地域の現在の安全保障情勢並びに NATO 及び EU における協力の可能性が焦点となった。
- 両大臣は、二国間及び欧州における協力の機会を模索するとともに、防衛能力及び国家・欧州大西洋地域のレジリエンスを強化することを目的として、政治的・軍事的な対話を引き続き深化させることで合意した。

● 参謀総長、NATO 軍事委員会に出席

- 9月18日から19日にかけて、デンマークのコペンハーゲンで開催された NATO 軍事委員会（国防参謀長級会合）に、ヴラド参謀総長が出席した。
- 議題は、アンカラで開催された NATO 首脳会合で採択された決定の実施に焦点が当てられ、特に同盟の抑止力と集団防衛態勢の強化、新技術の開発と統合、そしてウクライナへの支援の継続に重点が置かれた。
- 会議中、国防参謀長らは、安全保障環境の変化並びに現在及び将来の脅威に対応するための同盟の防衛態勢の適応に関する優先事項を、軍事的観点から分析した。

➤ 部隊・人員・装備品・防衛産業など

● 韓国から調達された最初の K9 自走砲が到着

- ルーマニア陸軍は、韓国の工場からブカレストの工場へ搬入された最初の K9 自走砲の画像を公開した。
- 陸軍へ正式な配備に先立ち、一連の技術試験等を予定しており、陸軍への引き渡しは来年初頭となる見込み。
- K9 自走砲は NATO 加盟国 6 カ国の軍で配備されており、ルーマニア国防省の契約総額は 40 億レイを超え、合計 54 両の調達を計画している。

我が国との関係

(1) 二国間関係全般

● 俳優・佐々木蔵之介氏に対するルーマニア「文化功労」勲章授与

- 9月12日、大使公邸において、ツォイウ外相より日本人俳優・佐々木蔵之介氏に対する「文化功労」勲章（コマンドール級、カテゴリーD「舞台芸術」）の伝達式が行われた。
- 佐々木氏が両国間の文化外交・対話の強化、及びルーマニアの劇作家・演劇の国際的な発信に尽力したことがルーマニアに評価され、ダン大統領により授与されたもの。



(2) 当館主催事業等

● 東欧コミコンで漫画ワークショップを開催

- 9月12-13日、東欧コミコンにて漫画ワークショップを開催。
ルーマニア在住の日本人漫画家・尾崎圭志氏が、日本の4コマ漫画の特徴をいかした起承転結やコマ割りを中心にレクチャーを行った後、延べ100名以上の参加者が各々作品を制作。
参加者の中にはプロ顔負けの画を描く人も。



● 落合陽一筑波大学教授によるミニセミナーの開催等

- 9月18日、大使公邸において、落合陽一筑波大学教授が「デジタルネイチャー」と大阪・関西万博で自身がプロデュースしたシグネチャー・パビリオン「ヌルヌル（null2）」に関するミニセミナーを行い、続けてルーマニアの政府関係者及び両国経済関係者を招いたネットワーキングレセプションを開催。
- 同日、大使は The Sensory Echo 実行委員会が ARCUB で開催した落合氏の講演会「WABI SABI Digital Nature」にも参加し、冒頭挨拶した。



(3) その他

● 当地ウクライナ避難民支援センターに緒方貞子会議室設置

- 9月16日、当地ウクライナ避難民支援センターに「緒方貞子会議室」が設置され、設置式に片江大使が出席。
- 緒方氏は、国連難民高等弁務官（1991-2000）として、在任中の多くの人道危機で「現場に近い保護」を提唱し、特に女性や子どもなど最も脆弱な人々を守ることを徹底した弁務官として知られる。JICA 総裁在任中（2003-2012）は人道支援と開発をつなぎ、緊急から自立への道筋を広げ、「人間の安全保障」という人を中心に据える考えを世界に広げた。
- 式典では、緒方元国連難民高等弁務官のレガシーが強調されるとともに、同センターで支援を受けたウクライナ避難民からも、ルーマニア政府、UNHCR をはじめとする国際機関や日本に対する支援に対する深甚なる謝意が表明された。

